

設計趣旨



大分工業
安部 遥都



大分工業
笠井 優那

私たちは、文化の交流と自然との共生を図る、新しいシェアハウスを提案する。今回の設計は、別府市に建つ日本人とベトナム人のシェアハウスにした。ベトナム人とのルームシェアにした理由は、大分県の在留外国人の国籍割合を見るとベトナム出身者が最も多く、また、日本とベトナムの文化に類似する要素があったためだ。

共生での文化交流と、地域の観光資源である温泉の2つの魅力を併せ持つ住宅は、新しい交流の機会(場)となり、そこから得られる学びや価値観、文化の交流が、外国人と日本人が共生する別府市を、さらに活性化させるのではないかと考えた。

さらに、別府市の魅力である温泉を最大限に生かし、地球環境を持続するための「温泉熱を利用した住宅」ができないかを考えた。温泉熱利用のシステムは、温泉の熱や湯けむりを発電機を通して電力として供給し、再生可能エネルギーとして利用するもの

だ。これを住宅に取り込むことができれば、地球温暖化問題に対して、温室効果ガス排出量の削減と、エネルギーコストの削減ができるのではないかと考えた。

